

食後に眠くなる人は、重篤な病気が隠れているかも？

「血糖値スパイク」が万病をつくる！

血流をよくしてアンチエイジング・免疫力アップ

医学博士 永田勝太郎

(価格) 1300 円＋税 (出版元) ビジネス社

株式会社ビジネス社（東京都新宿区 代表取締役：唐津隆）は、新刊書籍『「血糖値スパイク」が万病をつくる！ 血流をよくしてアンチエイジング・免疫力アップ』を5月25日に発売いたしました。ぜひ、貴メディアにてご紹介いただくと幸いです。

◆この飽食の時代に「低血糖」が急増中！

日本全国に、低血糖の人が1700万人もいます。ところが、この事実は一般に知られていません。血糖値といえば、高血糖ばかりが注目されますが、低血糖も健康に大きな害をもたらすのです。著者の永田医師は、低血糖が健康に与える害に着目し、長年研究を続けてきました。その結果、心筋梗塞、脳梗塞、ガン、アルツハイマー、線維筋痛症…などの患者さんの多くが低血糖であることがわかりました。

◆あなたの「うつ」、実は「低血糖」かも！?

食後に眠くなる人は、「血糖値スパイク」による低血糖が疑われます。血糖値スパイクとは、食後などに血糖値が乱高下することです。これが起こると血流が悪くなり、いわゆる「血液ドロドロ」の状態(糖化)になります。ドロドロの血液は、心筋梗塞や脳梗塞、ガンの原因をつくることはよく知られています。

また、「低血糖」では全身に必要なエネルギーが届かず、「低血圧」にもなります。低血圧は「朝起きられない」「身体がだるい」などの症状が似ているため、「うつ病」と誤診され、向精神薬を処方されたりして危険です。実際、そうした患者さんが多数います。低血糖なのに「うつ病」にされてしまうのです。

◆「低血糖」を治して、免疫力を高めて健康になろう!!

がん、梗塞、線維筋痛症、婦人科系疾患、アルツハイマー病など、低血糖はさまざまな病気の原因をつくることがわかってきました。

逆に言えば、「低血糖」を解消すれば、万病を防ぐことができます。本書はその研究結果をまとめた画期的な本です。本書を読んで、本来の免疫力や自然治癒力を高めて低血糖を防ぎ、健康を取り戻しましょう！



【永田勝太郎(ながた かつたろう) プロフィール】

1948 年、千葉県生まれ。慶應義塾大学経済学部中退後、福島県立医科大学卒業。千葉大学、北九州市立小倉病院、東邦大学、浜松医科大学附属病院心療内科科長、日本薬科大学統合医療教育センター長・教授、WHO（世界保健機関）心身医学・精神薬理学教授を経て、（公財）国際全人医療研究所代表理事、リヒテンシュタイン国際学術大学院大学ビクトールフランクフルト講座名誉教授、日本実存療法学会理事長（<http://www.compmed.jp/>）、日本疼痛心身医学会理事長。専門は、全人的医療学、実存分析学、心身医学、慢性疼痛学、起立性低血圧、東洋医学。著書は『心身症の診断と治療』（診断と治療社）、『実存カウンセリング』（駿河台出版社）、『体質・症状・病気で選ぶ漢方薬の手引き』（小学館）、『痛み治療の人間学』（朝日新聞出版）、共著に『現代の起立性低血圧』（日本医学館）など多数。

【低血糖が原因で起こる病気・症状】

・がん ・脳梗塞 ・心筋梗塞 ・アルツハイマー病 ・線維筋痛症 ・睡眠障害 ・口臭 ・歯周病
・顎関節症 ・アレルギー ・婦人科系疾患 ・月経前症候群 ・更年期障害 ・低気圧症候群
・ふらつき ・めまい ・喘息様気管支炎 ・低体温 ・下痢 ・便秘 ・貧血 ・冷え など

【本書の構成】

- 第1章 かくれ低血圧・低血糖の人が急増中！
- 第2章 食後に眠くなる人は、こんな病気が隠れている
- 第3章 あなたの「うつ病」、実は低血糖だった！
- 第4章 線維筋痛症の原因は低血糖だった!!
- 第5章 心と身体にさまざまな影響を及ぼす低血糖
- 第6章 免疫力アップ！ 食事を中心に生活習慣を見直そう

【お問い合わせ先】

株式会社ビジネス社

PR 担当：松矢

〒162-0805 東京都新宿区矢来町1-14番地

神楽坂高橋ビル5F

E-mail：matsuyapress@gmail.com

携帯:09072611982

TEL03-5227-1602 / FAX 03-52271603

著者への取材、企画ご協力、読者プレゼントご対応も承ります。